



青き楓

島高だより
令和2年3月号
（通巻第168号）

長崎県立島原高等学校
編集：研修広報部

校長室から

逆境の時こそ黙々と

校長 渡邊 孝経

この一ヶ月、新型コロナウイルス感染防止のため、卒業式の時間短縮・規模縮小、3月4日からの臨時休校と、経験したことのない対応を行っている。本校のみならず、長崎県、日本、世界において「逆境の時」といえる。また、全ての全国選抜大会が中止になった。代表を勝ち取り、全国で勝つために、生徒たちがこれまで、どれだけの努力とどれだけの犠牲と我慢をしてきたかと思うと、「残念」の一言では済まない。その気持ちを思うと「切ない」としか言いようがない。

しかし、下を向いてばかりいても始まらない。

島高生にとって「逆境」で思い出すが、噴火災害である。雲仙岳噴火災害体験記録集「楓たちの日々」の中の巻頭言で、当時の村川有校長が述べられている。「平成3年6月3日の大火砕流発生にうち続いて、猛暑の中の降灰、噴石、そして土石流災害……。たたみかけて来る天変地異の中で島原高校が必死に対応を模索していた最中、当の島高生たちは、連日の自宅待機、長時間の船通学、不自由な避難生活等々、焦燥と疲弊の極みにありながら、何ひとつ顔に出そうともせず、ただ黙々と耐えていました。そしてやがて大人たちの不安や心配をよそに、夏の分散授業、学習合宿、体育大会、文化部発表会、マラソン大会と、次々に確かな足跡を残していったのです。」

「逆境をチャンス」にできるかが、噴火災害を乗り越えた島原市民と島高、そして、時代は違えども島高生に与えられた課題であるように思えてならない。

この限られた環境と時間の中で、何ができるか。

思い出したのが、本校に赴任して剣道部の指導を始めた頃のことである。全国強豪校と比べたら、中学校時代全国レベルの実績を持っている生徒は皆無であった。そして公立普通科高校であるので、練習時間、強化費も全国常勝校とは雲泥の差であった。だからといって「負けるのは当たり前」と思ったら何も始まらない。勝負の世界では何の言い訳にもならない。「ないものねだりはしない」「できることはすべてやる」という覚悟で指導してきた。毎日毎日「手抜き指導はしない」と心に決めて、生徒よりも早く道場に立つことを心がけ、最初から最後まで生徒から目と心を離さなかった。

その当時、2月にお亡くなりになった野村克也監督の言葉が心に染みだ。

「ゆっくり急げ」もともとアウグストゥスの言葉らしいが、野村監督も使っていたらしい。新人選手にはニュアンスを少し変えて、「焦らず早く」と説いていたらしい。「急がば回れ」「急いては事をし損じる」ということらしい。また、野村監督は「『競い合っている選手が同じ実力なら、若いほうを使う』という発言を耳にする。育成だけを任されているならそれでいいが、目の前の試合に勝つだけなら『年寄りをつかう』ほうがいい。年長者のほうが経験もあって、計算が立つ。しかしわたしは、そのどちらも採らない。『同じ実力なら、より努力している方を使う』ただこれだけだ」とも言っていたが、選手起用で迷う時、その通りと感じ、参考とさせてもらった。

初めて玉龍旗大会で優勝した時、次の日の西日本新聞の「人」の欄に、私の座右の銘が「急がば回れ」と載った。記者に「練習で大事なことは何ですか」と訊かれ「急がば回れというように、基礎基本の徹底です」と答えたのだが、いつのまにか私の座右の銘になっていた。次の日、大学時代の先輩がにやにやしながら私のもとに寄ってきて、「お前の座右の銘は、俺の家の前の道路に看板としてあるぞ」と冷やかされた。

限られた環境と時間の中で、どれだけこれまで通りのことを平常心で、確実に黙々とやるか。島高生の真価が問われる時であり、チャンスの時であるとも言える。

第72回 卒業証書授与式

3学年主任 森崎 悟

去る、2月29日（土）に記念品贈呈式・表彰式・同窓会入会式が、3月1日（日）に第72回卒業証書授与式が挙行されました。今年は全世界的なコロナウイルス蔓延の影響で、式典の規模縮小・時間短縮が要請される中での実施でした。本校では、保護者、在学生（2年生）の出席の下、卒業証書授与式が挙行され、普通科189名、理数科38名の計227名が島原高校を巣立ちました。高校総体での優勝旗4本獲得をはじめ、校外で様々な活躍を見せ、後輩たちに島高生の姿を示してくれた72回生。3年間で培った「文武両道」、「質実剛健」の精神を胸に、令和という新たな時代の旗手として、世の中をリードする人材になることを信じています。



4月の主な行事予定

- 6日（月） 入学予定者オリエンテーション
- 7日（火） 新2・3年生クラス発表
教科書購入新3年 10:00～
新2年 11:00～
- 8日（水） 始業式・着任式・大掃除
入学式・PTA入会式
スタディサポート（1・2年）
- 9日（木） 校内模試（3年～10日）
地区別集会・通学方法別集会
学級役員任命式・学年活動
- 10日（金） 短縮40分授業、部紹介
- 13日（月） 早朝補習開始（2・3年）

- 13日（月） 新入生研修（1年～15日）
検尿一次
- 15日（水） 内科検診（2・3年）
- 16日（木） 眼科検診（3年）
- 20日（月） 体力テスト・身体測定（2 or 3年）
個人写真撮影
- 21日（火） 体力テスト・身体測定（1年）
個人写真撮影（1年）
- 22日（水） 体力テスト・身体測定（2 or 3年）
個人写真撮影 心電図（1年）
- 23日（木） スマホ安全講話
- 24日（金） 部活動生集会
- 27日（月） 内科検診（2・3年） 検尿二次
- 28日（火） 歓迎遠足（雨天時は歓迎会）
- 30日（木） 理数科課題研究発表会 貧血検査

速報 令和2年3月卒業生 大学等合格状況

進路指導主事 本多 敏高

今年度の合格状況です。大学入試改革に伴い全国的に安全志向が強まる中、積極的に志望校にチャレンジして合格を勝ち取った生徒です。国公立大学前期試験で不合格だった生徒も、新型コロナウイルスによる休校に負けず、熱く指導して下さる先生たちと最後まで粘り強く取り組むことで、大志を掴み取ってくれると信じています。

○ 大 学 国立大 63 名 公立大 15 名 私立大 129 名
○ 準大学 2 名 ○ 短期大学 8 名 ○ 専門学校 23 名（3月10日現在 人数は延べ数）

《 主な合格校 》

【国立大学】

筑波大 1 名 横浜国立大 1 名 大阪教育大 1 名 和歌山大 1 名 鳥取大 1 名
広島大 2 名 山口大 3 名 九州大 6 名 九州工業大 4 名 福岡教育大 6 名
佐賀大 6 名 長崎大 11 名 熊本大 10 名 宮崎大 1 名 鹿児島大 9 名

【公立大学】

都留文科大 2 名 島根県立大 1 名 岡山県立大 1 名 県立広島大 1 名
山口東京理科大 1 名 北九州市立大 1 名 福岡女子大 2 長崎県立大 5 名
宮崎県立看護大 1 名

【私立大学】

国際医療福祉大 3 名 育英大 1 名 文教大 1 名 国際武道大 1 名 秀明大 1 名
国学院大 2 名 実践女子大 1 名 中央大 2 名 東海大 1 名 東京女子大 1 名
日本大 2 名 日本体育大 1 名 明治大 2 名 立教大 1 名 大谷大 1 名 大阪学院大 1 名
関西大 1 名 関西外国語大 1 名 近畿大 1 名 関西学院大 2 名 広島工業大 2 名
広島国際大 5 名 九州産業大 6 名 九州女子大 1 名 久留米大 1 名 西南学院大 5 名
日本経済大 2 名 筑紫女学園大 2 名 中村学園大 4 名 福岡大 16 名 福岡工業大 2 名
福岡歯科大 1 名 日赤九州看護大 1 名 純真学園大 1 名 福岡国際医療福祉大 1 名
西九州大 4 名 活水女子大 3 名 長崎純心大 11 名 長崎総合科学大 1 名
長崎国際大 3 名 長崎外国語大 1 名 熊本学園大 4 名 崇城大 11 名
九州看護福祉大 2 名 熊本保健科学大 1 名 日本文理大 2 名 別府大 2 名
立命館アジア大 2 名 九州保健福祉大 1 名など

本校では 44 回生が 3 年生のとき雲仙普賢岳災害が発生し、今回の休校措置と似たような経験をしました。突然の火砕流で休校になり、いつ終息するか不安を抱えたまま分散授業がありました。そのような状況でも県下一斉模試で長崎県トップになり、進学実績も例年と遜色ない結果でした。在校生のみなさん、島高には困難を乗り越える伝統があります。

今回の臨時休校を前向きにとらえ、自主的に勉学に励んでください。大学入学共通テストでは「学力の 3 要素」が問われます。①知識・技能の確実な習得 ②思考力・判断力・表現力 ③主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度 の 3 つです。これらを意識して学習に取り組んでください。今回の経験が、きっとみなさんの飛躍につながります。上記のように、卒業した 72 回生の先輩も素晴らしい進学実績を残しています。みんなで一緒に頑張りましょう。



大学入試センター試験へ向けて出陣！

笑顔満開！合格おめでとう！

3 月 18 日（水）に令和 2 年度島原高校入学者の合格者発表が行われました。普通科 153 名、理数科 40 名、計 193 名が見事合格となりました。

9 時 30 分、正門前に合格者番号が掲示されると、自分の受験番号を確認し、抱き合ったり、ハイタッチをしたりして喜ぶ姿がたくさん見受けられました。

新たな仲間 75 回生の入学を心からお待ちにしています。本当におめでとうございます。



合格発表の様子

** 大変お世話になりました **

このたびの人事異動により、下記の先生方が島原高校（全日制）を離・退任されることになりました。これまで島原高校のためにご尽力いただいたことに感謝するとともに、今後のご多幸とご活躍を祈念いたします。本当にありがとうございました。

酒井 俊治 教頭	大崎高校へ	松嶋 繁昭 主幹事務長	ご退職
津上 忍 先生	平戸高校へ	片山 泰成 先生	口加高校へ
西島 詠治 先生	鳴滝高校(通信)へ	小森 貴 先生	県教育センターへ
山村なつみ 先生	対馬高校へ	尾藤 友里 先生	上五島高校へ
本村 俊貴 先生	大村高校(定時)へ	平野 智美 先生	上対馬高校へ
岡野ありさ 先生	中五島高校へ	中辻 龍喜 主事	豊玉高校へ
石田 俊弘 さん	ご退職	土居 裕佳 さん	ご退職

島原高校の情報は「ホームページ」「メールシステム」「青き楓」で！

学校の情報を保護者の皆様や地域の方々にお伝えするために、「ホームページ」と島高だより「青き楓」の充実を図っております。

本校の教育活動を紹介しておりますので、ぜひご覧になってください。

■学校ホームページアドレス…<http://www.shimabara-h.ed.jp/>

■「島原高校 PTA メールシステム」

荒天による学校行事の変更や、各種大会の結果速報などがメールで届きます。登録については「PTA 総会」でお配りした資料に掲載しております。スマートフォン等を利用されているご家庭ではぜひ登録をお願いします。

（右のQRコードを使って登録できます）

